

座席番号
受験番号
氏名

合計得点

二〇二〇年度 普連土学園中学校入学試験

二〇二〇年二月四日実施

国語 三次 解答用紙 一

問題一

問一 ㊦ 短編 ㊧ 点検 ㊨ しな

㊩ 似 ㊪ 保護

問二 太郎左衛門は ふたりにていゝといふこと。

問三 平気な顔できたないことをすること。

問四 時には少しくらいのうそが必要になることはわかるはずなのに、彼があくまでうそをついてはいけないと主張したから。

問五 Aをすると行ってBしかできなくてもAをしたと見なし、それをうそをついたことにしないこと。

問六 最初についたうそがばれないように次のうそをつく、ということが繰り返されていくことになるから。

問七 虫が木の葉や小枝に似せて自分を作ること。

生き物が別の何かを装うことを「嘘」と表現したところ。

問八 人間が一心を生きる存在であることに気づけたのであるから、それを受け入れることがさえできれば、死なずにすんだのではないかということ。

問九 才

問題二

問一 ㊰ 余計 ㊱ さかだ ㊲ 飼

㊳ 冷蔵 ㊴ 素足

座席番号
受験番号
氏名

合計得点

国語 二次 解答用紙 二

問一 貴伊子には友だちがないから。

問二 違うクラスであるにもかかわらず、貴伊子に講堂に行くようにと声をかけたところ。

問三 シゲルが貴伊子にくれよんを投げつけたとひづる先生が誤解したから。

問四 貴伊子がシゲルを撲ったことが腹立たしく、本当なら名前を呼び捨てにしたいところだったが、呼びすてにするのは失礼だと考えて「さん」をつけた。

問五 身なりの汚いシゲルよりも、ひどいことをして平気である貴伊子の方が汚いと新子には思えたから。

問六 犬を怖がっていることを新子に知られないようにごまかすため。

問七 ア 「イ」には部分点があります。

問八 本来なら怒っているはずのシゲルが、親しげに話しかけてくれたことで、謝るきっかけができたから。

問題三

コ	ケ	ア	シ	エ
カ	ク	ウ	オ	キ

問題四

設	切	結	欠	所
処	子	指	覚	確